

みらい賞

千葉県／49歳／女性／無職

くらの らん

歳乃蘭様

✕手紙の相手：指輪のために、食事抜き、徒歩通勤もしていたことは知ってるヨゝゝ恋人だったケン君✕

こんにちは。お変わりがあったんですね…

「〇〇店へ行って、指輪のサイズ測ってきて」と、貴方に言われたのは二十年前。

これが私の初プロポーズ体験につながるのね、と感激して、小躍りするような足取りでジュエリー店に行きました。その日のうちに行きました。

でも。一週間経っても、一カ月経っても、一年経っても、貴方からの連絡はありませんでした。音信不通… 消息不明…

気が変わった？ 私、フラれた？

そんな想いで私は過ごしていました。

それが、二十年後、リハビリ病院で再会するなんて…

「あの後すぐに、健康診断の結果が届いて大病が見つかったんだよ。

こんな体でプロポーズするのは失礼だと思ったんだよ」「指輪をかうはずだった金は手術代に消えたよ」だなんて。黙って身を引いたの？

言ってくればよかったのに。

でも、言わないところが貴方らしい。

境遇、姿は変わっても、目標(恢復)に向かつてひたむきに努力する姿は二十年前と変わらず、相変わらず素敵でした。食堂に誰より先に、従業員より先に、一番乗りで座っている姿も変わっていませんでした(笑)。

ね、どうする？

思いがけない貴方との再会に胸が高鳴り、その日の晩、なかなか寝つけない私は、深夜の二時、寝室の窓を開けてみました。満月でした。二十年前の貴方の姿を模倣(まね)て、月に向かつて敬礼してみました。そしたら…何という偶然でしょうか…

私の薬指に光輝くダイヤの指輪のような月が乗っています。

幻のあの日の指輪が、二十年後に届いたんだと思ってもいいですか？

✕手紙への想い✕

人生とは本当に思い通りにはいかないものですが、思いがけない展開もあるんですね。それに花鳥風月が私の心を支えてくれたと今でも✕自然✕の素晴らしさに感謝しています。